

北の風



平成26年度

No.11

平成27年1月7日



新年あけましておめでとうございます。平成27年がみな様にとって、最高の年になりますようお祈り申し上げます。北中学校は、今年開校40周年を迎えます。

去年は、保護者の皆様に体育祭や北斗祭などの学校行事を含め、学校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございました。今年は、開校40周年記念行事を含め、新たな取り組みも計画されると思いますので、一層のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

昨年を振り返りますと、3年生の広島原爆ドーム、資料館見学の修学旅行から大きな行事が始まりました。原爆体験者の平和講話、我々後生の者が何をしていくことが大切なのか考えさせられました。2日目以降は古都、京都・奈良の歴史散策により、今まで授業で学んできたことを実体験として捉えることができた3日間であったと思います。同時に、友との絆をより深くできたものと実感しています。修学旅行から1日遅れて出発した1年生の榛名高原学校、榛名湖畔で神流小、第二小の子どもたちから、北中1年生の仲間になれた3日間だったと感じています。3日目は雨でしたが、室内で192人が1つになれた行事でした。6月に入って行われた校内球技大会では、各学年暑い日でありましたが、1人も熱中症になることなく、無事に大会を終了することができました。最後には、教員チームと優勝したチームでの親善試合も行うこともでき、楽しい思い出に残るバレーボールの大会でありました。

部活動では、女子バレーボール部の県春季大会優勝をはじめ、多くの部活動が活躍してくれました。夏の県総体へも126名の生徒と13名の監督が北中学校より出場しました。関東大会へも県総体優勝の卓球と陸上、体操と4名の生徒が出場できました。



北斗祭 PTA合唱

2学期に入ってから、第28回北中体育祭、そして第4回北斗祭と子どもたちのすばらしい活躍が見られました。両行事とも、保護者の方々のご協力と参加により、生徒たちのより一層の頑張りが生まれたものと感謝しています。特に北斗祭では、今回初めて文化部の発表の機会を設け、日々の各部活動の成果がよく分かりました。とても感動的な北斗祭とすることができました。

また、2年生のチャレンジウィークでは藤岡市内の多くの企業、保護者の方々のお世話になり、無事終了することができありがとうございました。子どもたちを含め、北中学校全体が多くの方々に支えられ活動できていることがよく分かりました。生徒たちは、地域ボランティアにも参加させていただき、地域の1市民としての自覚も生まれたものと感じています。

去年は、藤岡市制60周年と高山社跡の世界文化遺産登録という記念すべき年でもありました。子どもたちにとっても、大きな誇りとして郷土藤岡を感じられたのではないのでしょうか。



世界文化遺産 高山社跡

3年生は、あとわずかです。残された義務教育最後の中学校生活の締めくくりの学期です。1、2年生は、新年度に繋げる学期にしていきましょう。

後期人権集中学習を実施

人間尊重の精神にもとづき、明るく楽しい人間関係作りが大切と考え、昨年の「いじめ防止子ども会議」で、子どもたちの主体的な考えで実践することが決まった「ハートフルツリー」を各クラス、学校全体で取り組みました。また、「ハイタッチあいさつ運動」と合わせて、「いじめの根絶」を目指した市内の全小中高学級の「ハートフルツリー」の発表学校での活動も実践しています。12月1日の人権集会で人権の大切さについて共通理解し、互いの良さを伝え、自分や周りにいる全ての人が必要な存在であることを実感するための「ハートフルツリー」の取組でした。12月12日までの2週間、互いの友達を思いやる温かい言葉がけで一杯実がついた大木になっていました。この2週間、北中全校では道徳の授業で「母の誘い」など互いの人を思いやることはどういうことなのかなど学習をしてきました。その人の立場に立った行動が重要だと考えます。子どもたちは、知識として正しいことは知っている。その正しい知識を自分の行動に繋げていくことがこれからの行動に託されます。学校の全活動を通し、多くの気づきや友達への共感的理解を繰り返す中で、良い判断ができ、正しい行動になっていくと考えています。誰もが楽しく過ごせる社会を築いていきましょう。



将来への道

12月18日に国語の授業の一環で、藤岡元気アッププロジェクトと名打って、藤岡市役所の方々へプレゼンテーションを行いました。市役所からお忙しい中、長瀬企画部長様をはじめ、4名の方が来校してくださり、生徒10名の発表を熱心に聞いてくださいました。



内容は「ららん藤岡」、「高山社」、「蚕マラソン」についての提案でした。10名の生徒たちが中学生らしい発想で、新鮮な意見を発表してくれました。今年ゆるキャラグランプリ全国1位になった「ぐんまちゃん」と藤岡市の「まゆだ一まん」のコラボなど、それぞれの観光の目玉になるための意見が主なものでした。

今回のこの様な企画を総合的な学習として取り上げられると、よりすばらしいものになると思います。藤岡市で生まれ、藤岡市で育った子どもたちが、自分のふるさとをどのように考え、将来の藤岡市をどのように創造していくのか、とても楽しみです。自分たちが住み続けていく故郷を中学生のうちから考えていくことが大切だと考えます。中学2年生で「チャレンジウィーク」を体験し、現在の自分たちが住んでいる藤岡市の企業や産業、観光など現状も少しは理解できています。そして3年生の修学旅行で、日本の古都「奈良」「京都」に行ってきた故郷藤岡を見た時に、将来の故郷をどのように発展させていかなければならないか、この様な視点でキャリア教育を発展させていくことが重要だと思います。来年度は、学校や病院などの街づくり、電気、交通、下水道などのインフラ整備の街づくり、農業、商業や工業など企業について、住民の働く場所の確保など中学生の目で、考えていけるとさらによいと思います。

